

2013 2/12

No.1940

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



富士山頂に吸い込まれるように、満月がゆっくりと沈む。幻想的な光景「パール富士」が27日午前6時ごろ、三浦市三崎町小網代の荒井浜で見ることができた。浜ではアマチュアカメラマンらが、しきりにシャッターを切っていた。



視点・点描	
最後の新天地に熱い視線	3
政治	
良識の府か無用の府か ねじれの意義問われる参院	4
経済	
年金支給年齢引き上げ焦点 動きだした3党合意	6
国際	
シンガポール、成長に黄信号 迫られる産業構造の転換	8
くらし2013	
薬ネット販売、事実上解禁	10
企業最前線	
事業強化進む医療機器市場	12
広告珍談	
～うまい物がたり⑧ 真珠磨とはなんだ	14
海外都市事情	
	15

事務局だより

◇横浜定例講演会

2013年2月22日（金）

13時30分～15時

崎陽軒本店

講師は東京大学大学院新領域
創成科学研究科国際協力学専
攻教授 戸堂 康之氏

演題は「つながりによる経済
成長～産業集積とグローバル
化」

◇横浜定例講演会

2013年3月13日（水）

富士ゼロックス神奈川株式会
社と共催

ホテル、ニューグランド「レ
インボーボールルーム」

▽特別講演 15時30分～16
時30分。講師は元ヤクルト
スワローズ監督の古田 敦也
氏、演題は「優柔決断のすす
め」

▽基調講演 16時40分～17
時40分。講師は第29代海上
幕僚長の赤星 慶治氏、演題
は「日本における周辺情勢」

▽懇親会「神奈川情報交流会」
17時50分～19時30分、「ペ
リー来航の間」

視点 点描



最後の新天地に熱い視線

県内の中小企業が、「アジア最後のフロンティア」といわれるミャンマーに熱い視線を送っている。公益財団法人・神奈川産業振興センター（KIP）が年初に初めて行った現地の投資環境を探る視察は「満員御礼」の盛況ぶり。背景には、生産拠点の中国への一極集中のリスクが尖閣諸島をめぐる日中間の対立の長期化で広く認識されたことが大きい。投資先を

東南アジア諸国連合（ASEAN）へと分散させる「チャイナプラスワン」の動きが今後、一層加速しそうだ。同国が「最後のフロンティア」と位置付けられるのは、ご存じのように一昨年3月の民政移管により、政治経済の状況が一変したからだ。軍政時代のミャンマーは東南アジア諸国が著しい経済発展を遂げるのをしり目に、欧米諸国が

らの経済制裁の影響もあって、国連の最貧国認定に甘んじてきた。それが一転し、「1人当たりの国内総生産（GDP）を現在の約700^{ドル}から2015年度までに3倍にする目標」を掲げ、民主化、経済改革へと突き進む道へとかじを切った。人口6000万人の巨大市場が突然目の前に現れたのだから、人々の関心がこのアジア最後の未開拓市場に注がれるのも当然である。

KIPによるミャンマーへの視

察団派遣もこうした最近の傾向を先取りし、県内の中小企業の同国への進出を後押ししようと企画された。1月15日から19日にかけて行われた視察には、人件費の安い同国に家具製造や業務委託などの分野で工場や拠点の設置を検討している県内の複数の企業の関係者ら総勢15人が参加。現地の工業団地を見学したり、紳士スーツの縫製工場Ⅱ写真Ⅱや魚のすり身の生産工場を訪ねた。KIPによると、1日5時間は停電するため自家発電機が不可欠という劣悪な電力事情や、少数民族の存在を念頭に置いた労務対策の必要性など、学ぶべき点が多かったという今回の視察。二の矢、三の矢を放ち、県内企業の進出に資する情報提供に努めてもらいたい。

（神奈川新聞社

統合編集局次長 宮本 敏也）



真珠磨とはなんだ

かつてオランダのことを「阿蘭陀」「和蘭陀」と書いた。アメリカは「亜墨利加」「亜米利加」「亜米堅」、イギリスは「英吉利西」、フランスは「仏蘭西」「仏狼西」、ロシアは「魯西阿」「魯西亜」と書いた。「迦爾波尼亞」はカリフォルニア、「華盛頓」はワシントン、「龍動海口」はロンドンである。

お菓子もおなじようにおもしろい。「乾蒸餅」とはビスケットのこと。風月堂の創業者・米津松造の幼児が病弱で、見舞いとどけられたビスケットを研究。1877(明治10)年、第1回内国勸業博覧会に「乾蒸餅」を出品。受賞して評判になった。その年、「西洋模製菓子」というミルク入り洋菓

パピヨ」

西洋酒入はウイスキーボンボン、有平糖は安土桃山時代に渡来

新製菓子廣告
 其見る散播して水片の如く之を試むるに其味淡泊にして風味馨ふるものなるに富み滋養分多し其味淡泊にして風味馨ふるものなるに富み滋養分多し其味淡泊にして風味馨ふるものなるに富み滋養分多し

MARSH MALLOW
 真珠磨

東洋各埠頭南洋各埠頭
 總本店 風月堂 大住喜右衛門
 東京本館 風月堂 電話五百八十八番
 同原宿分館 風月堂 電話六百零八番
 同神田分館 風月堂
 同麻布分館 風月堂
 同麹町分館 風月堂
 同銀座分館 風月堂
 同有明分館 風月堂
 同豊洲分館 風月堂
 同品川分館 風月堂
 同大塚分館 風月堂
 同池袋分館 風月堂
 同目黒分館 風月堂
 同三軒茶屋分館 風月堂
 同目黒分館 風月堂
 同三軒茶屋分館 風月堂
 同目黒分館 風月堂
 同三軒茶屋分館 風月堂

した南蛮菓子のひとつ。砂糖に飴を加えて煮詰め、着色して花や果

物をつくった。辻占いパピヨとはなんだろ。
92(明治25)年、「真珠磨」のこんな広告をだした。

「水片の如く之を試むるに其味淡泊にして風味馨ふるものなる、最も滋養分に富めり。之れ近時欧州各国の都府に流行品の一に算せらるマシユマローと称ふる珍菓なり」
真珠磨とは、マシユマロであった。当字つくりの天才だ。
1900(明治33)年、風月堂の米津は「砂糖煎餅」という広告をだした。ウエファースである。フランスに在住する兄から、イギリス・ロンドンで流行する「砂糖煎餅」を送ってきた。イギリスからその機械を取り寄せ、この度、製造したとコピーがついている。

掲出
1892(明治25)年、朝日新聞
(図) 風月堂の「真珠磨」の広告